

季刊情報紙 2024 春号

HOPE

「学校・家庭・支援機関をつなぐ」

「HOPE」は、「様々な理由により学校へ行くのが困難な子供たちが、将来への希望を持てるよう、支援者のために様々な情報をお届けする機関紙です。」

SSR(スペシャルサポートルーム)とは

広島県では、不登校傾向の児童生徒の支援のために、SSR(スペシャルサポートルーム)という場所が県内35校(9小学校、26中学校)に設置されています。竹原市では、竹原小学校と竹原西小学校の2校に設置しています。不登校傾向にある児童生徒の支援を行う上で、このSSR設置の考え方や運営方法を、各支援者が自分の関与している児童生徒の支援にどう生かすかが大きなポイントであると言えます。

(1)SSR(スペシャルサポートルーム)の特色 (※SSR運営ガイドブック 広島県教育委員会より)

- ①困っている児童生徒を支援する伴走者として、担当(この教室の学級担任の役割を担う人)が決まっている。
- ②一般の教室への復帰を前提とはしない。(教室に戻ってもよい。戻らなくてもよい。教室とSSRを併用してもよい。)
- ③「居場所」にとどまることなく「成長できる場」であること。
- ④この教室を卒業する時には「生きる力＝社会的自立に必要な力」が育まれていることを目指す。

SSRで育みたい「生きる力」とは、

- ・相談する力
- ・自分の強みを知り生かす力 苦手な場面ではSOSを出せる力 (※は追記)

- ⑤提案したカリキュラムを変更したい時には相談することができる。

(2)SSR設置の考え方をどう支援に生かすか

不登校傾向の児童生徒への支援を考える際、周囲の支援者はともすれば「学級に戻そう」と取り組みます。しかし、学級に適應できる児童生徒であれば不登校にはなっていません。学級に戻れない児童生徒の場合、学級以外の選択肢がなければ、家庭に引きこもらざるを得なくなります。従って、この選択肢となる「SSR設置の考え方を生かした場や機会をどう確保するか」が、不登校傾向の児童生徒の支援における大きなポイントであると言えます。

具体的には、①教室以外にも成長が実感できる場を作る。②教科学力に限定せず、生きる力(相談する力や自分の強みを知り生かす力)を育む観点からも子供の支援にあたる。ことが大切です。

(3)SSRや別室にも登校しない場合どうするか? (※SSR運営ガイドブック 広島県教育委員会より)

学校に不安を抱いたことのある児童生徒は、学校を連想させるもの(登校ルート、制服、校門、校舎など)を目にすると、同時に不安や嫌な気持ちがセットになってよみがえってくるがよくあります。その場合は学校ではない、教育支援センターやフリースクールなど外部の学習機関など一人一人に合わせた学びの場を選択できるよう支援しましょう。

※竹原市では、「わかたけ教室」や「ホームチュータリング」などを活用する方法があります。

「生きる力を育む」視点から、子供のための選択肢を考えましょう!

令和6年4月1日発行：竹原市教育委員会